

製品・サービス動向-国内

■アバー・インフォメーション:マイクスピー
カ付きのプレミアム Web カメラ
「VC520Pro」発売

VC520Pro (アバー・インフォメーション)

アバー・インフォメーション株式会社 (<https://jp.aver.com/>) (東京都新宿区) は、プレミアム Web カメラ「VC520Pro」を新たに発売する。

VC520Pro は、光学 12 倍ズーム搭載の電動パン/チルト/ズームカメラで、最大フル HD1080p/60fps の映像出力に対応している。自動 FOV 調整、スマートフレーム機能、逆光補正 TrueWDR 機能を搭載。

パッケージには、本体・マイクスピーカ・リモコン・USB ケーブル・電源アダプタ・取付マウントを同梱している。

5 月下旬から受注開始予定で、価格はオープンとなっている。

■日本ブレケケ：テレワークプラットフォーム「Brekeke UC」の新バージョン提供開始

(4月15日)

株式会社日本ブレケケ (<https://brekeke.jp/>) (東京都豊島区) は、オフィスのテレワーク環境を実現するパッケージソフトウェア「Brekeke UC」の新バージョンを4月1日より提供開始した。



外線電話パネル

Brekeke UC 利用イメージ (日本ブレケケ)

Brekeke UC は、オフィスの UC 環境を実現するアプリケーション。テレワークやスタッフ同士で使用するだけでなく、ウェブサイトや SNS を窓口とした社外からの問い合わせ受付なども可能だ。

クライアントに専用のソフトウェアやプラグインをインストールする必要がなく、WebRTC をサポートするウェブブラウザとインターネット環境があれば、デスクトップ PC、ノート PC、タブレット、スマートフォンなどでも利用できる。

新バージョンでは、テレワーク機能が強化されたほか、ユーザインターフェイスとデザインが一新され、ユーザビリティが大幅に向上した。

「Brekeke PBX」との連携により、音声やビデオによ

る通話をフレキシブルに制御、電話番号を収容しての外線発着信を可能にする。ウェブブラウザが内線端末として動作し画面操作ひとつで行うことができるため、電話機などを用意する必要はない。

一方、無償のスマートフォン用アプリ「Brekeke Phone」を使用することで、外出先や移動中でもメッセージや着信が受けられるため、より柔軟なモバイルワークや快適なテレワークが可能になる。加えて、PCに接続して利用する小型の LED ランプ&スピーカ「Busylight」に対応しており、離席中でもメッセージや着信を光と音で知らせることもできる。

社外とのコミュニケーションも簡単、無料に行えるのが Brekeke UC。ウェブサイトにコンシェルジュや窓口を設置して、ウェブブラウザを通して顧客からのチャットや通話で問い合わせを受けたり取引先のゲストを会議に招待することなどができる。

日本ブレケケによると、OS に依存しないため、異種端末間での音声やビデオによるコミュニケーションを簡単に実現することができ、テレワークや BCP 基盤といった用途以外に、遠隔教育やカウンセリング、ビデオを使った外国語教育、外国人旅行者へのビデオ通話サポートなどさまざまなシーンで利用できるとしている。

■ADDIX」テレワーク時の Web 会議を支援する「WorkStyleRecorder」サービス提供開始

(4月15日)

株式会社 ADDIX (<https://addix.co.jp/>) (東京都千代田区) は、Web 会議をリアルタイムで発話内容を記録するサービス「WorkStyleRecorder (ワークスタイルレコーダー)」の提供を開始した。

WorkStyleRecorder は、音声をテキストで保存するため、議事録作成の負担が軽減され、会議に集中できる。また、会議終了後はテキストを編集することが可

能。ブラウザ版では外出時も会議内容にアクセスして振り返りをすることもできる。

テキスト化するため同時翻訳ツールとしても使える。指定の言語に自動翻訳できるため、利用言語が異なる人とのスムーズなコミュニケーションも可能になる。音声認識は 40 言語に対応し、テキスト翻訳は 68 言語に対応している。

Web 会議はもちろん通常の会議にも対応している。Web 会議では「Microsoft Teams」「Skype for Business」「Zoom」「Cisco Webex」などさまざまな Web 会議ツールに対応している。

なお、ADDIX では、テレワーク推進企業を対象に WorkstyleRecorder を 2 週間無償で提供すると発表している。

■NTT ビズリンクと国立情報学研究所：全国の大学・研究機関・医療機関の職員向けにセキュアなリモート映像会議サービスを提供

(4月24日)

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社 (<https://www.nttbiz.com/>) (東京都文京区、以下 NTT ビズリンク) は、全国の大学・研究機関の職員向けにセキュアなリモート映像会議サービスを提供する。

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 (<https://www.nii.ac.jp/>) (東京都千代田区、以下 NII) の協力のもと行う。

NTT ビズリンクのクラウド型テレビ会議サービス基盤は、日本国内のみにサーバを設置し、ネットワークルートを国内に閉じ、エンドエンドの通信暗号化を施すなど、法人・公共向けにセキュアなサービスを提供している。また、サーバの利用状況やサーバに接続するネットワークトラフィック状況を管理し、安定したサービスを持続的に運用しているという。

新型コロナウイルスの感染拡大で、リモートワーク

環境が常態化していく中、リモート映像会議もセキュアな環境での実施が求められ始めている。NTT ビズリンクはこれまでフレッツ光ダイレクトアクセスという専用通信装置による閉域サービスを提供していたが、NII から提案を受け、自宅の通信環境を変更することなく、ソフトウェア VPN によってインターネット環境下でもネットワークレベルでのセキュリティを確保できるサービスの検討を行い、大学・研究機関・医療機関向けに、映像会議をリモート環境からセキュアに実施できるサービスを提供することにした。

サービス内容としては、ブラウザによる、映像・音声によるコミュニケーション、チャット、資料共有、アノテーション（注釈等の付与）などのほか、インターネット接続、ソフトウェア VPN 機能もある。

利用用途としては、大学・研究機関などによるセキュアな環境を求められる教授会・審査会・医療機関における医療従事者間の機微な情報を扱う会議などを想定している。用途に応じた提案をするとしている。

提供開始は、5月7日から。7月末までは無料にて提供する。

なお、NTT ビズリンクは学術情報ネットワーク（SINET）上で SINET 加入機関に対してクラウドサービスを提供するためのサービス提供機関として承認されている。

ビジネス動向-国内

■山口フィナンシャルグループとブイキューブ、テレワーク普及と金融サービス向上を目的とした業務提携

（4月23日）

株式会社山口フィナンシャルグループ（<https://www.ymfg.co.jp/>）（山口県下関市）と株式会社ブイキューブ（<https://jp.vcube.com/>）（東京都港区）は、テレワークの普及と金融サービスの向上を目的と

した業務提携契約を締結したと発表。

両社は連携・協力のもと、ブイキューブの Web 会議サービスを始めとした映像コミュニケーション技術とスマートワークブース「テレキューブ」を活用し、山口フィナンシャルグループのテレワークの充実と域内の事業者へのテレワーク導入支援を行う。また、快適な環境で利用可能となる Web 相談窓口の銀行店舗等への設置、保険ひろばの店舗網拡大のための新規出店、次世代店舗の共同研究（無人店舗など）などの共同施策を実施していく予定となっている。

また、今回の締結と合わせ、山口フィナンシャルグループ本店 1 階にテレキューブを設置し、応接室として利用をするほか、Web 会議で山口フィナンシャルグループ各社のテレワークで勤務する社員への相談を行うことができるブースとして活用する。さらに、地域の事業者に対して、テレワークの普及に向けたソリューションを提供していく。好例と考えられる取組みについては地方銀行への横展開にも取り組んでいくとしている。

製品・サービス動向-海外

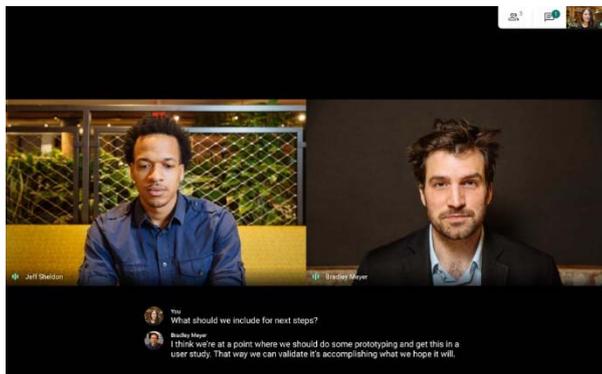
■Google 社：Web 会議サービス「Google Meet」無料提供へ。セキュリティは標準で対応

（Google Blog：4月29日）

Google 社（<https://blog.google/>）（米国・カリフォルニア州）は、最大 100 人まで参加できる Web 会議サービス「Google Meet」を無料で提供開始する。

これまで G Suite サービスの一部として提供してきたが、無料でミーティングの主催・参加・スケジュール設定を行えるようになる。Google Meet のウェブサイトである <https://meet.google.com/> では「間もなく無料でご利用いただけるようになります」と 4 月 30 日現在表示されているが、同社によるとこれから数週間

程度をかけて順次無料提供を開始するとしている。



同社の音声認識技術を使ったライブキャプションにも対応した Google Meet (Google Blog)

Google Meet では、プラグイン不要の Chrome などのブラウザでコミュニケーションが行え、スマートフォンやタブレットでは「Google Meet apps」を使用することでミーティングに参加できるようになっている。ライブキャプションにも対応している。会議時間は 60 分まで。ただし、9 月 30 日までは制限をかけないとしている。

今回の発表でかなりの段落を割いて説明していた部分がセキュリティの関係。Google によると「セキュリティは標準的に提供されている (by default) 。」とし具体的には下記の 4 つの例を挙げながら安全にミーティングが行えるとしている。

(1) 誰が参加者として参加できるか否か、あるいは会議中の参加者の強制ミュートや会議室からの解除など参加者コントロールをホスト側が持つ。(2) 許可されていない人 (匿名参加者) は会議室には入れない。(3) ハッカーなどからの攻撃に耐えうる複雑な会議コードを提供している。(4) ミーティングや録画は全て暗号化されている。

さらに加えて、アカウント関連のセキュリティ強化としての「アドバンスド・プロテクション・プログラム」によりフィッシングやアカウントハイジャックの防止が可能という。また、GDPR・HIPAA・COPPA・FERPA など各種関連規制にも対応、定期的なセキュリ

ティ監査も行っているとし、Google が持つグローバルでセキュアなネットワークも含め、ユーザのセキュリティ保護に十分配慮したサービス (同社は「プレミアムビデオミーティング」と紹介している) であると強調している。

今回の発表と合わせて、「G Suite Essentials」も発表。チーム向けに最適化されており、ダイヤルイン電話番号、大規模ミーティング、ミーティング録画、GoogleDrive などの Google Meet の上位機能が利用できるようになっている。このプランは 9 月 30 日まで無料提供される。

Google によると、今年の 1 月と比べ、1 日当たりのミーティング開催数は 30 倍に増えたという。また、今年 4 月においては 3 億分のミーティングが開催され、1 日当たり 300 万人の新規ユーザが使い始めている。先週においてはユーザ数が 1 億人を超えた。

■Facebook 社：最大 50 人まで参加できるグループビデオ通話「Messenger Room」を発表、エンドツーエンドの暗号化、AR エフェクト、没入型 360 度背景などにも対応

(4 月 24 日)

Facebook 社 (<https://about.fb.com/>) (米国・カリフォルニア州) は、最大 50 人まで参加できるグループビデオ通話「Messenger Room」を発表した。

Messenger Room は、メッセージャーあるいは Facebook のニュースフィード・グループ・イベントから直接ルームを作成し、Facebook アカウントをもっていない場合でもビデオ通話に参加するように招待することができる。ビデオ通話を行うルームには 50 人まで入ることができ、時間制限はないという。

ルームに招待されたら携帯電話やパソコンから参加できる。参加するためのアプリのダウンロードは必要がないという。ただし、メッセージャーアプリがあれば、バニーの耳のような AR エフェクト、没入型の 360

度背景、ムードライティングなどの新しい AI 搭載機能で遊ぶこともできる。



Messenger Room (Facebook)

いつものニュースフィードなどから簡単に作成できることから、参加者のカレンダーなどを確認する必要もなく、立ち寄る (drop by) という感じで気軽にしかも簡単にビデオ通話が行えるところが特長。しかし、ルームを作成する際には、ルームを表示して参加できるユーザを選択することや部屋にロックをかけることも可能。気軽に開始できるビデオ通話ながらも、ルームのホストとしてのコントロールとセキュリティを兼ね備えている。

今週、Messenger Room は一部の国で開始され、今後数週間で他の地域にも展開される予定。

なお、同社傘下の WhatsApp でも、最大 8 人とのグループ音声通話とビデオ通話を利用できるようになる。Messenger Room と同様にエンドツーエンドの暗号化で保護されているため、WhatsApp でさえも、プライベートな会話を他の人が見たり聞いたりすることはできないとしている。

ビジネス動向-海外

■Zoom 社：セキュリティ強化を柱とした新バージョン「Zoom 5.0」を発表、AES 256 ビット GCM 暗号化など

(Zoom blog:4月24日、4月27日)

Zoom 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) は、セキュリティ強化を柱とした新バージョン「Zoom 5.0」を 4 月 27 日に発表した。

同社は、ズーム爆撃やエンドツーエンド暗号化などのセキュリティ問題を受け、90 日間セキュリティ強化プランの一環としての発表。

Zoom 社ブログによると、Zoom 5.0 の主な強化点 5 つを挙げている。

(1) AES 256 ビット GCM 暗号化：同社は現在の暗号化機能に加え、新たに AES 256 ビット GCM 暗号化にも対応する。4 月 29 日発表の同社ブログ (90-Day Security Plan Progress Report:April 29) によると、GCM は Galois/Counter Mode の略で ECB モードよりも暗号化の仕組みが高度化されているという。システム全体が対応するのは 5 月 30 日からとなっている。

(2) 違反ユーザ報告機能：Zoom 会議で問題となる使い方をしているユーザを Zoom に報告できる機能を搭載した。この機能は初期設定 ON で提供され、ユーザの判断で OFF にすることもできる。

(3) 暗号化状態を表示するアイコン (盾)：暗号化状態を表示するアイコンが左上に設置され、グリーン色が表示されると、AES 256 ビット GCM 暗号化によるセキュアなミーティングになっていることを示す。その盾のアイコンをクリックすると統計など詳細情報ページを閲覧できる。

(4) 経由するデータセンタについての情報：ミーティングやウェビナーの予定を立てる時に使用するデータセンタを選ぶことができるようになっている。またミーティング最中にはどのデータセンタ経由になって

いるか画面左上の「info icon」でわかるようになる。

(5) ミーティング開始/終了時の機能強化：アップデートされるユーザインターフェイス、ミーティング主催者のコントロール権を強化した。また主催者が退出すると、新たな主催者を簡単に選ぶことも可能。

以上のほか、プロフィール写真コントロール機能、パスワード設定(最小文字数を規定)、クラウドレコーディングのセキュリティ機能なども含まれるとしている。

■Verizon 社：Blue Jeans Network 社の買収を発表

(4月16日)

Verizon Communications 社 (<https://www.verizon.com/>) (米国・ニューヨーク州) は、Blue Jeans Network 社 (<https://www.bluejeans.com/>) (米国・カリフォルニア州) を買収することで両社は正式に合意に達したと発表。

この合意により、Blue Jeans Network 社は、Verizon の一事業部門である Verizon Business の一部となり、同事業部門のユニファイドコミュニケーションポートフォリオを拡充することになる。顧客は、Verizon の高品質なグローバルネットワーク上で Blue Jeans エンタープライズグレードのビデオエクスペリエンスを利用できるようになる。

また、Blue Jeans Network のサービスは、Verizon の 5G 製品ロードマップに統合され、遠隔医療、遠隔学習、フィールドサービスなど高成長分野にソリューションを提供していく計画となっている。

買収に伴う法的な手続きは第二四半期に完了する予定となっている。Blue Jeans の創設者と主要な管理チームが Verizon に加わり、ビジネスの継続的な成長と革新をリードしていくとしている。

サービス等無償提供発表企業

コロナウイルスの影響からテレワークや在宅勤務を行う企業などが増えています。そういった企業などを支援する目的で遠隔会議・ユニファイドコミュニケーション提供会社がサービスなど無償提供を行う動きがとくに2、3月に入ってから活発になっています。

ここでは、CNA レポート・ジャパンが3月15日現在(その後3月31日も追加しています)把握した、無償提供もしくは機能拡張などのプレスリリースを行った提供会社の名前と URL (ホームページもしくは当該ページ) を掲載します。各社期間限定となっています。詳細は各社ホームページまたは直接お問い合わせください。皆様のご参考になればと思います。(順不同)

- 経産省(学びを止めない未来の教室、Zoom 教育関係) : https://www.learning-innovation.go.jp/covid_19/zoom/
- ライフサイズ社(クラウドサービス) <https://pages.get.lifesize.com/remote-work-with-lifesize/>
- インタビューメーカー(Web面接) <https://interview-maker.jp/>
- ドコモシステムズ(Web会議 sMeeting) <https://ddreams.docomo-sys.co.jp/smeeting/>
- RSUPPORT(Web会議 RemoteMeeting など) <https://www.rsupport.com/ja-jp/>
- DialPad(クラウド PBX) <https://www.dialpad.co.jp/>
- アバー・インフォメーション(デモ機など無償貸出し) <https://jp.aver.com/>
- ブイキューブ(V-CUBE ミーティング、営業、教育、医療機関など) <https://jp.vcube.com/>
- ベルフェイス(営業特化 Web 会議) <https://bell-face.com/>
- プリンストン(クラウド会議サービス BlueJeans) <https://www.princeton.co.jp/news/2020/03/202003101100.html>
- AloT クラウド(Web会議) <https://www.aiotcloud.co.jp/>

- ポリグロットリンク（遠隔通訳サービス、学校向け）
<https://polyglot-link.co.jp/>
- ギンガシステム（LoopGate for PC/Tablet）
<https://ginga-sys.jp/>
- シスコシステムズ（Web 会議 Webex）
https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/collaboration/webex/90days.html
- ネオキャリア（Web 会議 Calling）
<https://www.calling.fun/>
- meet in（Web 会議ミーティング、教育向け）
<https://meet-in.jp/>
- マルジュ（Web 面接 SOKUMEN）
<https://www.maru.jp/sokumen/>
- トラストバンク（自治体専用チャット LoGo）
<https://www.trustbank.co.jp/>
- ビジョン（ビジネス向け SNS ツール JANDI）
<https://vws-biz.com/jandi/>
- StarLeaf/メディアプラス
<https://www.starleaf.jp/>
- 日本アバイア（Avaya Spaces、教育機関・非営利）
（在宅コンタクトセンター）
<https://www.avaya.com/jp/>
- シャープマーケティング（TeleOffice）
<https://www.ideep.com/>
- DMM 英会話（Bellbird ビデオ通話サービス）
<https://eikaiwa.dmm.com/app/meeting>
- Vonage（Vonage Free Conferencing）
<https://freeconferencing.vonage.com/>
- ロゼッタ（遠隔会議上音声翻訳ツール）
<https://www.jukkou.com/lp/onvaku.html>
- ニューロネット（Web 会議 SaasBoard）
<https://www.neuronet.co.jp/>

*4月30日現在で無償提供を終了しているところもあるかもしれません。個別にご確認ください。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（5月～6月）

「いまさら聞けない Web 会議とテレビ会議の違い 選び方徹底解説セミナー」、「オフィスの「会議室足りない問題」に。スマートワークブース「テレキューブ」体験会」、「テレワーク環境をスムーズに整える秘訣とは？～安心してテレワークするための IT ツールガイド～」 など
会場：（大阪・Web セミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の

情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記で閲覧できます。

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2020年4月30日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp